

主催者からのご挨拶

ラブアース・クリーンアップ福岡地区実行委員会

「ラブアース・クリーンアップ」は、市民・企業・行政が協力し、「地球環境と地域行動」の実践として始めた地球環境美化活動で、今年で30回目を迎えます。毎年6月を中心に実施される海岸、河川、山なみ、公園等の散乱ごみを回収する全市一斉清掃を企画・開催するとともに、年間を通じて海洋ごみ問題の啓発を実施しています。

「ごみを拾うことをきっかけに、ごみを捨てる人を無くし、環境について考え、行動する人を増やしたい」という思いで、このシンポジウムを開催いたします。



ラブアース・クリーンアップ清掃イベントの様子

福岡都市圏広域行政推進協議会

福岡都市圏は、脊振山地や三郡山地、玄界灘や博多湾に囲まれ、自然に包まれるようにまちが広がり、豊かな自然と充実した都市機能が調和した魅力あふれる地域です。

そこに暮らす多様な生きものの中には、クロツラヘラサギやカブトガニ、ウミガメなどの貴重な生きものが見られます。都市圏の豊かな自然に住民が親しみと誇りを感じながら保全活動を行い、その「かけがえのない財産」を次の世代に引き継いでいけるよう、自然と触れ合い、環境を学ぶ機会を充実させていきます。

特に海洋ごみ問題に対しては、玄界灘や博多湾の美しく豊かな海をまもるため、海岸地域だけでなく内陸部を含めた都市圏全体で取り組んでいきます。

このシンポジウムは、令和3年度に策定した10年間の計画「ふくおか都市圏まちづくりプラン(第6次福岡都市圏広域行政計画)」に基づく「美しく豊かな海をまもる福岡都市圏プロジェクト」の第1弾として実施しています。

福岡都市圏



クロツラヘラサギ



カブトガニ

国連ハビタット福岡本部

国連ハビタット福岡本部は、アジア太平洋地域の国々で急速に進む、都市化によるスラムの拡大や生活ごみの増加など、居住環境の深刻な悪化への対策や、自然災害や紛争で被害を受けた住居やインフラの復旧等により人々の生活の再建に取り組む九州唯一の国連機関です。

現在の主な取り組みは、アジア太平洋地域で発生する紛争や自然災害後の再建復興、貧困対策のほか、新型コロナウイルスの緊急対策や気候変動に対する支援など様々です。更に、福岡市・福岡大学と連携した「福岡方式」によるごみ埋立技術移転や、福岡を中心とする日本の環境技術・ノウハウをアジアの国々へ紹介する取り組みなども行っています。

海洋プラスチックごみの約8割は私たちが住む陸上から流れたものと言われており、海洋ごみ問題の解決に向け、世界の国々や都市、地域コミュニティ等と連携し様々な提言やプロジェクトを行っています。



Cagayan de Oro City

ラブアース・クリーンアップ2021協賛企業(五十音順)

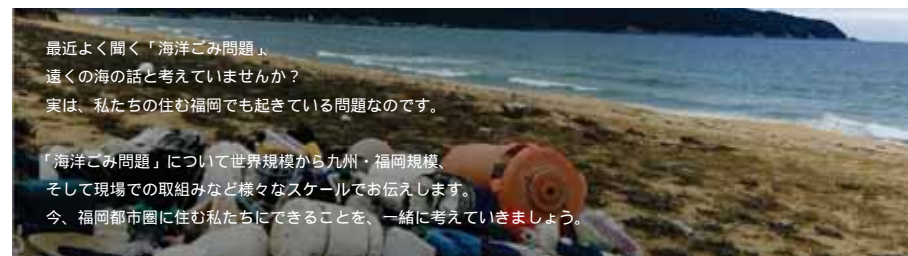
RKB毎日放送株式会社 イオン九州株式会社 九州電力株式会社福岡支社 株式会社九電工
 コカ・コーラボトラーズジャパン コニカミネルタジャパン株式会社 積水ハウス株式会社九州シャーマン支店
 第一生命保険株式会社九州コンサルティング営業室 日本マクドナルド株式会社 福岡あき伍・びん対策協会 福岡東急会

ラブアース・クリーンアップへの協賛を募集しています

協賛については福岡市環境局家庭ごみ減量推進課(TEL 092-711-4039)までお問い合わせください。

みんなで学ぶ 福岡都市圏 海洋ごみ問題シンポジウム

～ 同じ川・同じ海で私たちはつながっている～



最近よく聞く「海洋ごみ問題」、
 遠くの海の話と考えていませんか？
 実は、私たちの住む福岡でも起きている問題なのです。

「海洋ごみ問題」について世界規模から九州・福岡規模、
 そして現場での取組みなど様々なスケールでお伝えします。
 今、福岡都市圏に住む私たちにできることを、一緒に考えていきましょう。

日時

令和3年11月29日(月)
 13:30～15:00(13:00受付開始)

開催場所

アクロス福岡 7階
 大会議室
 (福岡市中央区天神 1-1-1)

定員

アクロス福岡 70名
 糸島市会場 30名
 福津市会場 15名



申込はこちら

配信

オンライン配信
 (YouTube)
 定員：制限なし



リンク先の
 ホームページから
 視聴可能です

- ・インターネットの接続が不安定だと音声や映像が乱れる場合があります
- ・携帯電話をご利用の方はwi-fi環境での参加を推奨します
- ・接続が多い公衆のwi-fiでなく、できるだけ広域帯な状態でご参加ください
- ・パケットをご利用の方は速度制限にご注意ください
- ・通信料は参加者負担となります。ご了承ください

プログラム

講師
 国連ハビタット福岡本部 本部長補佐官
星野 幸代
 講演タイトル
 世界からみた海洋ごみ問題



講師
 九州大学大学院
 工学研究院環境社会部門 准教授
清野 聡子
 講演タイトル
 福岡都市圏はアジアの海洋ごみ
 問題解決のホットスポット
 ～九州・福岡の海洋ごみ問題とその発生源～



講師
 一般社団法人ふくおかFUN 代表
大神 弘太郎
 講演タイトル
 今日からあなたも!
 海を伝える現場から
 ～福岡での海洋ごみ問題への取組み～



主催：ラブアース・クリーンアップ福岡地区実行委員会
 福岡都市圏広域行政推進協議会
 協力：国連ハビタット福岡本部
 シンポジウム運営事務局：092-852-6556(平日10:00～17:00)



私たちの海にいま、問題が起きています！

私たちの生活に不可欠なプラスチック。日本は世界でも廃棄量が多い国です。プラスチックごみは世界で毎年数百万トンが海に流れ込んでおり、このままでは2050年までに魚の量を上回ってしまうといわれています。これは遠い海の話ではなく、身近な海でも起きていることなのです。



街のごみが川のごみへ、川のごみが海のごみへ

海に流れ込むプラスチックごみの8割は、私たちの暮らす陸域から発生しています。ポイ捨てされたごみや、正しい捨て方をされずに取り残されたごみは、風や雨に運ばれ、排水溝や川をとおり海に流れ込みます。福岡市内の川や海で清掃して集めたごみの調査でも、プラスチックがとても多くを占めていることが分かっています。その中には、レジ袋や容器包装プラスチックなど、私たちが日々の生活で使うものも多くみられました。流れ込んだプラスチックごみの5%は海岸、1%は海面へ、そして94%がやがては海底に沈んでいくといわれています。

出典元：「海洋ごみ問題について」（環境省）8P、Eunomia（2016）Plastics in the Marine Environment（Third International Conference on Marine Debris（1994）、GESAMP（1991）、Results of the International Coastal Cleanup（ICC）（2012）等から概算）



出典元：令和元年度 福岡市保健環境研究所調べ

海に流れ込んだごみによる影響

生き物への影響

ごみが身体に巻き付いてくい込み、傷つけてしまうことがあります。また、エサと間違えて食べてしまうこともあります。栄養のないプラスチックごみでお腹がいっぱいになってしまうと、本来のエサが食べられなくなり、生き物は弱ってしまいます。

景観への影響

ごみのせいでせっかくのきれいな景色が霞かされています。人が立ち入りにくい場所にも流れ着くため、汚れた状態が長く続いてしまいます。

漁業への影響

プラスチックごみが網に絡まるなど、漁業の妨げになってしまいます。海底にごみがあると、生き物がすみにくくなるなど、漁場環境の悪化につながる要因になるといわれています。

このままプラスチックごみを放っておくと・・・

プラスチックは波や太陽の力でもろくなり、バラバラに砕かれてしまいます。海に散らばる5mm以下の「マイクロプラスチック」はとて多く拾い集めることはできません。



私たちができること

私たちの大切な、きれいな海を未来につないでいくために、自分にできることから始めてみましょう。

ごみになるものをもらわない

自宅にテイクアウトするときにはスプーンやフォークを断るなど、「とりあえずもらう」をやめましょう。

繰り返し使う

お気に入りのマイバッグを使って、使い捨てのプラスチックを減らしましょう。

ごみをポイ捨てしない

家族や友達にもポイ捨てさせない。ごみが散乱しないように、出す時間などのルールを守りましょう。

資源はリサイクル

リサイクルできるものはごみではなく、資源として分別しましょう。

清掃活動でゴミを拾う

たとえばラブアース・クリーンアップなど、自分の手できれいにすると、気分がリフレッシュするし、街や自然が好きになれます。